THE JAPAN EXCHANGE AND TEACHING PROGRAMME

JETからの手紙

英語は言語だけではなく、世界への扉の鍵だ

広島県福山市教育委員会学びづくり課　外国語指導助手
Maaike van der Burg（マイケ・ファンデルブルグ）

オランダ出身の ALT

JET プログラム（語学指導を行う外国青年招致事業）において、オランダ人の外国語指導助手（ALT）は毎年１、２人のみが参加しています。私は大学生の頃から日本語を勉強しており、かねてから日本の暮らしを経験したいと思っていたため、2024 年の夏に JET プログラムに参加し、広島県の福山市で ALT として５校で勤務することになりました。ALT の仕事には、英語を教えることのほかにも、異文化交流を促進し、相互理解を深めることや、お互いの文化を学ぶことなどがあります。

ノンネイティブの強み

「英語のネイティブじゃない ALT がいる？」他の ALT からよくそのような質問をされ、私はびっくりしました。もちろん、母国語はオランダ語ですが、自分の国では英語ができる人が多いです。そして、ヨーロッパで２、３カ国語を話すことはあまり珍しいことではありません。私は母国語ではない英語を勉強した経験があるため、さまざまな学習方法で小中学生をサポートできると考えています。授業では主に３点を重視していました。

授業で意識していること

まず、最も大切なことは、子どもたちに英語恐怖症を乗り越えさせることと考えています。プレゼンテーションではオランダ語と英語の単語を比べ、授業では言語学習の苦労について話しました。そして、「失敗すると、英語が上達します」と、強調しました。児童生徒たちが、勇気を持って英語学習に取り組めるようサポートしています。

次に、勉強の意味を伝えることが大切だと考えます。多くの子どもたちは英語学習のモチベーションが低く、特に、中学校では「なんで英語を勉強しないといけないの」と聞かれることが多かったです。そこで、さまざまな方法で子どもたちの意欲を高めようと試みました。英語を勉強したおかげで、日本に住むことができたという私の体験談をもとに、英語を通じて世界が広がり、旅行や留学ができたり、新しい友達ができたりすることなど、英語ができるようになるメリットを強調しました。英語は言語だけではなく、世界への扉の鍵です。

小学校の夏祭りに参加し、児童とコミュニケーションを取りました

最後に、ステレオタイプを乗り越えることが大切と考えます。日本の子どもたちはあまり外国人とつながる機会がないため、学校で異文化交流を発展させることが ALT の仕事の中でも特に重要です。小中学校で子どもたちからたくさんの質問があり、「オランダに味噌汁はあるか」や「オランダの子どもは漫画が好きか」とよく

聞かれました。質問にはいつも一生懸命に答え、プレゼンテーションではオランダの自然、街や村、学校の写真を見せました。さらに、毎年３回程度、福山市の学びづくり課による「Fun With English」という英語イベントを 20 人の ALT と開催しました。そのイベントで、さまざまな国の ALT と出会う機会となり、ゲームを通じて子どもたちは自然な英語を聞きながら異文化交流を体験することができます。今年は、ジャマイカ、トリニダード・トバゴ、バルバドス、フィリピンなど９カ国の ALT が参加しました。

ALT の友人と一緒に自転車でしまなみ海道を渡りました

日常に潜むオランダ文化

ALT の仕事の大切な役割は異文化交流の促進です。授業ではオランダとヨーロッパの国々の文化を発表しました。日本の学校生活の中には、オランダの文化が数多く潜んでいます。ミッフィーの文房具を持っていたり、オランダのサッカー選手が好きな人がいたり、修学旅行でハウステンボスに行ったりします。そのおかげでオランダの文化を簡単に紹介することができます。その上、学校の歴史の授業で日本とオランダが共に歩んできた歴史も学びます。英語学習に加えて、日蘭関係と歴史を発表しました。

仕事以外に日本各地を旅行し、５月に香川県の直島を訪ねました

双方向の異文化交流

異文化交流は双方向であることが大切です。福山市に住んでいた間、日本と広島県の大事な文化と歴史を勉強しました。原爆ドームと広島平和記念資料館を見に行き、写真、手紙、ビデオを通じて 1945 年８月６日原爆投下の悲劇を学び、平和を守る大切さを学びました。小学校の子どもたちと広島平和記念式典のため一緒に千羽鶴を折ったこともありました。この１年間、JET プログラムを通じ、さまざまな異文化経験ができたことに、非常に感謝しており、一生の思い出になりました。この貴重な経験を、私の今後の人生に生かしていきたいと思います。

プロフィール

Maaike van der Burg
（マイケ・ファンデルブルグ）

オランダ出身です。大学では、日本語とアジア研究を専攻し、卒業後、2024 年～2025 年広島県福山市で外国語指導助手（ALT）として勤めました。現在、ノルウェーのオスロ大学で博士課程の学生として日本社会と宗教の研究を行っています。将来は大学教授を目指します。